

博士前期課程

特別科目

インターンシップ A 1単位 Internship A

産業界における企業のさまざまな活動について理解し、自らが専攻する専門の領域に加え、幅広い専門知識の必要性を学ぶ。具体的には、経営品質の観点から「顧客本位に基づく卓越した業績を残す企業」のあり方、ならびにその企業の活動に対するエンジニアの関わり方について理解を深め、実社会の中で複雑に絡み合う専門領域の実情を学習する。これにより、自らが思い描く現時点のキャリア像を、社会から必要とされる技術者像へと近づけていくことが可能となる。また、社会から必要とされる社会人基礎力について学び、そこに示される指標に基づいた自己分析を行う。

目標：顧客本位に基づく卓越した業績を残す企業の特徴について説明する事ができる。企業の発展に寄与するエンジニアの役割について理解できる。社会人基礎力に基づいた自己分析を行うことができる。

インターンシップ B 1単位 Internship B

実際の企業の業務体験や、企業が提供する課題の解決案の提案などの業務を行うことにより、仕事の進め方や企業の技術者として要求される知識・技術や人間力（社会人基礎力）などについての理解を深める。そして、自分が修得している知識、技術および人間力と企業の業務遂行上必要な知識、技術の深さと広がり、および人間力の内容とレベルの相違を認識し、今後自分が修得もしくは磨くべき項目を深く理解する。また、企業の社員との交流などから、業務の遂行に必要な人間関係の重要性を理解する。就業体験を参考に大学院の修学計画を立案し、自分のキャリアデザインを再検討する。

目標：インターンシップ先の企業概要が理解できる。的確な就業体験計画が立案できる。体験に必要な予備知識を調査し、事前学習を行うことができる。業務体験や提供された課題の解決案を作成できる。作業実施記録や実施報告書を作成し、発表または報告ができる。就業体験を基に大学院の修学計画を立案できる。

建築インターンシップ A 3単位 Architecture Studio Internship A

入門・基盤・応用科目やモジュール統合科目を通して身につけた能力を、社会で実践・応用できるように、建築設計事務所などにおいて一定期間の実務訓練（延べ105時間）を受ける。建築設計や工事監理に関する実務教育を受けることで、建築界の状況を把握し、各自が学ぶ専門分野が社会でどのように活かされているかを学び、建築は技術の総合化、技術者のコラボレーションによってつくられていることを体験する。

専修科目「建築設計・意匠研究（修士設計）」以外の履修生は、本科目とモジュール統合科目の単位を含む一定の修得単位数を超えている場合、一級建築士受験のための実務経験数1年間を満たしたとみなされる。

目標：インターンシップの体験を通して、建築実務の状況把握、技術の総合化、技術者のコラボレーション、専門領域と実務の関係などについての認識を深めることにより、建築技術者の職能とその社会的使命を理解し、社会が求める技術者像を意識した建築活動を展開することができる。

建築インターンシップ B 7単位 Architecture Studio Internship B

入門・基盤・応用科目やモジュール統合科目を通して身につけた能力を、社会で実践・応用できるように、建築設計事務所などにおいて一定期間の実務訓練（延べ245時間）を受ける。建築設計や工事監理に関する実務教育を受けることで、建築界の状況を把握し、各自が学ぶ専門分野が社会でどのように活かされているかを学び、建築は技術の総合化、技術者のコラボレーションによってつくられていることを体験する。

専修科目「建築設計・意匠研究（修士設計）」の履修生は、本科目とモジュール統合科目の単位を含む一定の修得単位数を超えている場合、一級建築士受験のための実務経験数2年間を満たしたとみなされる。

目標：インターンシップの体験を通して、建築実務の状況把握、技術の総合化、技術者のコラボレーション、専門領域と実務の関係などについての認識を深めることにより、建築技術者の職能とその社会的使命を理解し、社会が求める技術者像を意識した建築活動を展開することができる。

建築構造設計演習 3単位 Exercise in Structural Design of Buildings

大学学部においては構造設計に関する知識を学習し、演習を行っている。しかし、一連の講義・演習では実社会で通用するスキルを身に付けることはできない。そこで本科目は、初めに大学で学習した構造設計に関する復習を行い構造設計について概観した後に、大学で学習していない具体的な部材設計の進め方を学習する。構造計算には国土交通大臣が認定した構造計算プログラムを使用する。さらに、近年導入が進んでいる免震構造や制震構造などの特殊な耐震設計の進め方について具体的に理解する。

目標：本科目は学部から大学院までに学習した建築物の構造設計に関する知識を応用し、実物件に即した課題を通して構造設計の理解の深化と、実社会における構造設計の担い手として十分通用するスキルを醸成する。

博士前期課程

環境・設備設計演習

3 単位 Exercise in Environmental Design of Buildings

建築物を総体として優れたものにするためには、十分な環境性能を有するものを設計する必要がある。特にこれからの時代においては BIM や CIM のようなコンピュータを用いた総合的な建築設計に取り入れられる可能性が高い。実在する建築物を対象として、各種の建築環境・設備の予測計算やシミュレーションを行う。現実によりうる様々な条件の下での環境制御に関わる知識を学ぶ。

目標：建築・都市相互に関わる環境要素を取り上げ、実務的見地からの演習を行い、建築設計に耐えうる能力を培う。そのための実際的な能力を、ケーススタディを通じて修得することを当科目の学習目標とする。

建築学専攻特別講義

2 単位 Ad hoc lectures in Architecture

本本来広範な領域を含む建築学においては、近年、ますます境界領域が拡大しており、また、従来の専門分野においても、つねに技術革新や新しい潮流の発生が見られる。本講義では、建築学およびその境界領域における新しいトピックス、あるいは用意された専攻教育課程の中では教えきれない諸領域について教授する。

目標：建築学およびその境界領域における先端技術や最新の動向について説明できる。

副専修セミナー

2 単位 Minor Subject Seminar

この科目においては、受講学生の所属する専修科目担当教員以外の大学院担当教員の下で、一定期間（2 単位相当分）研究活動を行う。その内容は、それぞれの担当教員の専門領域であり、それぞれ定める。この研究活動を通して、狭い研究領域にとどまらず広い視野の下に既存の科学技術あるいは研究領域の融合、新しい領域の開拓に対処できる能力の獲得を目指す。特に、実際の産業において活用できるような総合的な知識と応用力を身につける。